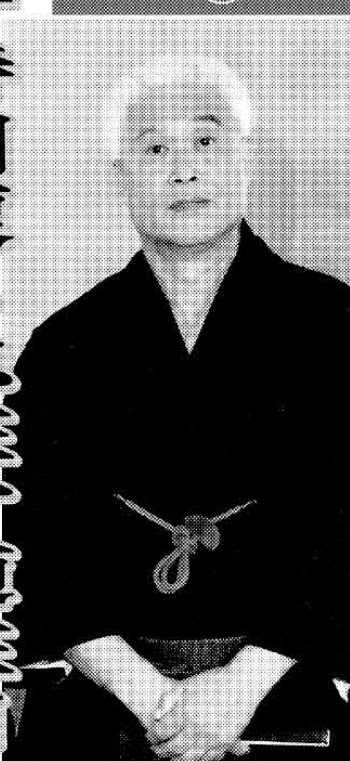




ニッポン  
ドクター和の

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東大第一病棟、大阪大第二病棟、長尾クリニックを開業。外来診療、在宅医療、総合診療を目的とする。『平成臨終図巻』として単行本化中。関西国際大学客員教授。

124 落語家 山遊亭金太郎



時回復も急性骨髄性白血病に移行

落語家の山遊亭金太郎さんは、入院していた病院内で7月に落語会を行い、この場で患者さんや医療者を大いに沸かせた

「ぜんざい公社」という落語を存じでしょうか。酒だけではなく、甘い物にも税金をかけたように考えたのが、「ぜんざい公社」というビルを建てます。その前を通りかかった男。ぜんざいが食べたくなり中に入ると、書類を書かされるわ、大金を印紙で払われるわと、たらい回しになります。くたびれた揚げ句、ようやく念願の「ぜんざい」にありついたらと思いきや、それが汁気も甘味も感じられない、酷いシロモノ。これがぜんざいか! と怒ると、お役所の人はい言います。「甘い汁はすべて当方が吸っておりますから」

9月17日に都内の病院で死去。死因は、急性骨髄性白血病との発表です。64歳でした。金太郎さんが「だるい、調子が悪い」と言い出したのは昨年の夏のこと。精密検査の結果、骨髄異形成症候群(MDS)と診断されました。これは、赤血球、血小板、白血球の大本である造血幹細胞に異常が起きる病気です。

全身倦怠(けんたい) 感や動悸(どうき)、息切れ、鼻血など、さまざまな症状が現れます。貧血を訴えて外来に来られる高齢者に、この病気が見つかることも稀ではありません。金太郎さんはすぐに、抗がん剤治療を始めました。そして今年に入ってから、ご家族からの造血幹細胞移植を行っていき、そこから徐々に体調が回復し、高座に上がることもできるようになりました。しかし、この6月に急性骨髄性白血病に移行してしま

います。白血病とは、血液の「がん」のこと。その病態と細胞の種類から4種類に分けられますが、日本人で最も多いのが、急性骨髄性白血病です。しかし、金太郎さんのように骨髄異形成症候群から急性骨髄性白血病に移行するケースは、比較的治療が難しいと言われています。

64歳といえば、普通の勤め人であれば、そろそろ引退を考える年齢ですが、断家さんはここからが円熟期。ファンの方々はやるせない気持ちでいることでしょう。先の「ぜんざい公社」は金太郎さんの公式HPで動画が見られます。